

商業

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
商 業	ビジネス基礎	2	2年次・D1群	選 択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
ビジネス基礎（実教出版）				商業系列の履修者

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1	第1章 商業の 学習と ビジネス	1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス	4	・商業科目に興味を持たせ、意欲的に学ぶ態度を身に付ける。 ・商業科目を学ぶ上で、ビジネス基礎が土台となることを理解させる。	1 2 3 1 2 3
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	第2章 ビジネスと コミュニケーション	1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用	5	・コミュニケーションは、相手との関係を良好に保つために必要であることを理解させる。 ・相手を尊重し誠実に接することが大切であることを理解させる。	1 2 3 1
		第3章 経済と 流通の 基礎	1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通	6	・商品は他者によって生産されたものであることを理解させる。	1 2 3
				7	・経済主体と経済の循環を中心に、国民経済と国際経済について理解させる。	1 3
	2 学 期	第4章 さまざまな ビジネス	1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 物流業 5. 金融業 6. 情報通信業	9	・日本のものづくりのすばらしさを、地元の企業を例に理解させる。	1 2 3
				10	・サービスの生産には顧客の参加が必要であることを理解させる。 ・情報通信技術が、企業活動や社会に与える影響について考えさせる。	1 2 3 2 3
		第5章 企業活動の 基礎	1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用	11	・企業の役割はよい商品を提供して人々との暮らしを豊かにすること、雇用、納税などであることを理解させる。	1 2 3
				12	・企業が長期に成長・存続していくことが社会から期待されていることを身に付けさせる。	1 3
		第6章 ビジネスと 売買取引	1. 売買取引の手順 2. 代金決済		・企業間で売買取引を行う上での注意事項を確認させる	1 2 3
					・生徒に身近な例を挙げながら、金種・発行主体・強制通用力など理解させる。	1 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	3 学 期	第7章 ビジネス計算	1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用	1	・割合の表し方、特に小数、百分率、歩合、分数の関係を理解させる ・ビジネスの現場での、度量衡の換算の方法を理解させる。	1 2 3 1 2 3
		第8章 身近な地域のビジネス	1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向	2 3	・生徒が住む地域の魅力と課題を考えさせ、地域理解力を身に付けさせる。	1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会の一員としてビジネスの意義や役割を理解している。 ○商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、経済社会の一員として実践し、その成果を的確に表現する。		○ビジネスの諸活動に関する問題の解決を目指して、自ら考察を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して創意工夫をする能力を身に付ける。		○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○ノートやレポート、提出物等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価等の状況も評価に当たって考慮する内容とする。
	手 段	・定期考査 ・小テスト ・提出物 ・検定試験		・小テスト ・定期考査 ・検定試験		・授業中の活動 ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・考査は年5回実施。各回とも考査点70%、平常点30%で成績を評価する。 ・平常点は、授業態度、提出物の状況、検定試験の結果による。			
	学習上の 留意点	・検定前や長期休業中の補習に欠席、遅刻をしないこと。 ・問題集代、検定代金等で年間3,000円程度必要です。				